

THE ROOF

郡山市立美術館ニュース ザ・ルーフ

2010.11.12 Vol.37



〈石版『懐古東海道五十三驛眞景』油彩原画〉全53点のうち

- 1 戸塚驛
- 2 二川驛 岩谷観音
- 3 濱松驛 金剛院観音
- 4 舞阪驛 自渡口望荒井
- 5 興津驛 清見寺三保松原遠望

1877(明治10)年頃
油彩・キャンバス

作者は明治の画家・亀井至一(1843~1905)の弟・竹二郎(1857頃~1879)。兄弟とも横山松三郎に学び、玄々堂に入って石版画と油彩画を制作。明治10年から翌年にかけて東海道の宿場町を描いた53点の油彩画を連作した竹二郎は、明治12年22、3歳といわれる若さで亡くなった。53点の中から約半数を常設展示室で展示中。その後も作品を入れ替えて、年度内展示予定。

1



2



3



4



5

生誕250年記念

北斎漫画

江戸伝承版木を摺る

平成22年11月13日(土)～12月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：毎週月曜日

観覧料：一般500(400)円 高校・大学生300(240)円

※()内は20名以上の団体料金 / 中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館 協力：美術書出版株式会社 芸仲堂 企画協力：アートシステム



〈関連事業〉

●伝承版木による再摺実演

講師：伊藤達也さん
(浮世絵木版画彫摺技術保存協会会員)
日時：平成22年11月13日(土)、14日(日)
両日とも①10時30分～ ②13時～ ③15時～
場所：企画展示室前ロビー 見学無料

●美術講座①『北斎漫画』の魅力

講師：当館学芸員
日時：平成22年11月28日(日)14時～
場所：講義室(聴講無料)

●ギャラリートーク

講師：当館学芸員
日時：平成22年11月21日(日)、12月5日(日)ともに14時～
場所：企画展示室(企画展観覧券要)

●美術講座②『北斎の時代と文化』

講師：当館学芸員
日時：平成22年12月19日(日)14時～
場所：講義室(聴講無料)



挿図①『北斎漫画』三編より

「ヨーロッパに『北斎漫画』をもたらしたことが確実にわかっているのは、「シーボルト事件」で有名なシーボルトです。シーボルトが一八三二年にオランダで刊行した『日本』という本に挿図として『北斎漫画』の所々から絵柄が転載されてい

名もない江戸の職人や絵師のタマゴたちから、モネやゴッホ、ガレなどの世界的な芸術家までを驚かせた『北斎漫画』は、幸いなことに江戸以来伝承されてきた版木が残されていたため、発行当時の雰囲気そのままに、平成の世に再摺されて私たちの目の前に展示されることとなりました。

漫画、というタイトルですが、『北斎漫画』は今日でいうコミックマンガとはちよっと違います。「漫然と描いた絵」とでも言いましょうか、江戸の風俗や人物、動植物、妖怪変化から歴史上の人物などをスケッチ風に描いた全部で約三九〇〇ほどの図が全十五編に収められています。なかには建築や武具などの詳細な図面風の図があったり、遠近法の説明図(挿図①)があったり、と教科書的な要素も含まれています。まさに森羅万象、ありとあらゆる事物を詰め込んだ「北斎ワールド」です。

そもそも『北斎漫画』は陶磁器の梱包材としてヨーロッパに渡った、という伝説がありますが、これは少々眉唾もので、実際に最初にヨーロッパに『北斎漫画』をもたらしたことが確実にわかっているのは、「シーボルト事件」で有名なシーボルトです。シーボルトが一八三二年にオランダで刊行した『日本』という本に挿図として『北斎漫画』の所々から絵柄が転載されてい



挿図④ ガレ「鯉文花器」(北海道立近代美術館所蔵)



挿図③『北斎漫画』十三編より

また、影響をうけたヨーロッパの工芸家に、工ミール・ガレがいますが、ガレの代表作に、『北斎漫画』十三編に載っている「魚濫観世音」(挿図③)の絵から観音様を取り除いた鯉の絵柄をそのまま転写した文様のガラス花器がいくつもあります。写真(挿図④)はそのひとつで、北海道立近代美術館所蔵の作品です。ガレの「ジャポニスム」の出发点となった花器です。



挿図②『日本—その建築、美術、工芸』(クリストファー・ドレッサー著)より～二図とも『北斎漫画』初編より転載している

て、その後も様々な形でヨーロッパ全土へ紹介されていきました。明治に来日したクリストファー・ドレッサーもその著作『日本—その建築、美術、工芸』に『北斎漫画』から絵柄を転載しています(挿図②)。

それでは『北斎漫画』所載の図からいくつか紹介しましょう。

まずは、代表的なジャンルである江戸風俗。士農工商、公家に芸人、力士など、その描写対象は枚挙にいとまがないのがこのジャンルですが、『北斎漫画』といえはやはりこの「(仮称)どじょうすくいおじさん」(挿図⑤)でしょう。この手の展覧会のポスターやチラシには必ず登場するおじさんです。しかし、ヨーロッパ人はこのおじさんをご思ったのでしょうか。ちなみに筆者の友人のE君がドイツ人の前でこの顔と同じ顔をしたら、露骨にいやな顔をされました。



挿図⑤「北斎漫画」十編より



挿図⑥「北斎漫画」三編より

また、ページ全体を使って踊りの様々な仕草を描いた「雀踊り」(挿図⑥)という図があります。連続した動作を書き連ねたこの図はアニメの原型である「パラパラ漫画」の、さらにその原型だと言えるかもしれませぬ。槍術とか速捕術などのパラパラ描写もあります。

風俗と並んで楽しいのが動物や植物の図です。犬やネズミなど、江戸の人にも身近な動物から龍や河童などの想像上の動物もあり、また、ワニとかゾウとか、はたして北斎が実際に目にしたのかわからない動物まで描いています。実物と比較して「？」のものもあります。まずけど、その特徴を誇張したり、どこななくユーモラスであったり、なにか物悲しそうだったり、なんとも憎めない動物描写です。

ところでこの『北斎漫画』ですが、はじめ名古屋の永楽屋という版元から出版されたときは、北斎自身も版元も一編で完結のつもりだったようですが、思いのほかの好評と、江戸の版元・角丸屋などの協力もあって、はじめは十編、のち二十編シリーズとする予定にまでなりました。しかし、北

斎の生前に刊行されたのは十二編までで、十三、十四編は北斎の死の直後に刊行されました。それで十五編で完結となったのですが、実際に最後の十五編が刊行されたのはなんと北斎の死の二十九年後、一八七八(明治十一)年のことです。

江戸時代の書籍は木版によって摺られて出版されまし

た。その版は板、すなわち版木ですが、その版木の所有権は版元にあり、通常錦絵など浮世絵の版木はよほど売れ行き好調だったり、特別な事情がない限り、カンナで削られて新作用の版木として再利用されます。書籍の場合も、版元がさらに摺り増ししようとしな

い版木を摺るためには、版木に負担をかける上質な和紙が必要です。約八万枚という数が必要だった今回の再摺には高知県須崎の和紙が使われましたが、和紙製作技術者の高齢に伴う継承者問題をかかえています。

もうひとつが摺師(挿図⑦)の存在です。今回の再摺は文部科学省から貴重な伝統技能を継承する団体として認定されている「浮世絵木版画彫摺技術保存協会」所属のベテラン摺師四名によって摺られました。浮世絵木版画の摺師や彫師についても和紙同様継承者問題をかかえています。

ということは、今回の再摺は北斎の生きた時代をそのまま伝えた材料と技術による最後の大事業と言えるかもしれません。宇宙開発とか、ノーベル賞ものの研究とか、技術革新も重要ですが、わたしたちの暮らしや楽しみを支えてきた昔ながらの伝統技能もまた重要な財産です。今回は、『北斎漫画』の中身の面白さを楽しんでもらうとともに、そんなこともちよっぴり感じてもらうたい、と思います。

(鈴木誠一)



挿図⑦ 摺師の伊藤達也さん

常設展示室のヒミツ

常設展示室のヒミツ



同じ作品が展示されているかというところはありませんが、コレクションをいつも展示している部屋という意味であって、展示替えをして作品を入れ替えているのです。

というのも、郡山市立美術館のコレクションの中には水彩画や版画などに紙に描かれた作品も多く、こうした紙の作品は光の影響を受けやすく、強い光に長時間さらされると変色してしまつたなど保存上の問題があります。作品にとつては、光を当てずじまつたままにしておくのがもっともよいという極論がありますが、それでは作品を見ていただくことができなため、照度を抑えたうえ長時間の展示を避ける、ということがあります。

そこで当館では3か月ごとに展示替えをおこなつて、紙の作品は年に1期だけの展示に限るようになっています。また他館への貸出などがあつた場合は、その年は常設で展示しない作品もあります。

油彩画の作品は照度を調節することによって、収蔵庫にしまわずに展示している作品もあります。そういった作品も、いつでも同じ位置にかけたままになっているわけではありません。展示室ごとにその期間のテーマを設け、作品をリストアップし展示の順序を決めるので、ひとつの作品でもテーマや一緒に並ぶ作品によって、展示される位置が変わることもあるのです。

たとえば常設1の部屋に展示される作品の中で、バーン・ジョーンズの「フローラ」という作品。当館のコレクションを代表するひとつ



つです。この作品は他館からの貸出の依頼をいただいても、これまでお断りすることが多く、開館以来ほとんど展示されています。いろいろな機会に当館が紹介される際、代表作として写真を掲載していただくことも多いので、わざわざ遠方からいらした来館者がっかりされたりすることのないよう、つねに展示しておきたいと考えているからです。

とはいえこの作品も、展示室の中で定位置があるわけではありません。展示するテーマ



展示風景とおびからくり模型（左）
模型の作成には、造形作家・斎藤真紀氏のご協力をいただきました。

によって違う位置に別の作品と並ぶことによって、あらたな魅力を発見していただきたいと思います。

当館では4つある展示室を5つのパートに分けて使うことが多いのですが、そのパートごとに担当者を決めて、担当者が展示のテーマと作品の選定をおこなっています。テーマは同じ時期に開催される企画展を考慮して選ぶことが多く、企画展とあわせて見ていただくとより充実した内容になるように考えられています。

たとえば今年度第2期（7月22日～10月17日）では夏の企画展「ピエトリクス・ポター展」と関連させて、展示室1は、イギリスの豊かな自然」というテーマで、ポターが後半生暮らし、作品の舞台ともなった湖水地方を中心にイギリスの風景画を紹介しました。また、展示室2は「いきものへの眼差し」というテーマで、日本の近代美術の中から動物をモチーフにした彫刻や絵画を展示しました。

第3期（10月20日～12月26日）展示室4では、「北斎漫画展」とあわせて楽しんでいただけるよう「北斎漫画と工芸デザイン」と題し



展示替え作業 大きくて重い作品は数人で展示します。

みなさんは常設展示室に行かれたことがありませんか？郡山市では小学校4年生のときに「郷土を学ぶ体験学習」という授業で美術館を見学する学校が多いのですが、初めて美術館を訪れたという生徒さんも意外と多く、また「前に家族と来たことがある」と答えても、常設展示室まで見たことがある子ども達はごくわずかのようです。

「常設」ということは常に設置されているといった意味ですが、常設展示室にはいつも

昨年と今年、担任する学年の子ども達と共に美術館を訪れ、鑑賞の学習をする機会を得た。事前に学芸員さんと簡単な打ち合わせをし、当日のレクチャーをお願いした。

「この絵の中には、どんなものが描かれているかな？さがしてみよう。」

「どうして、鐘の上のウサギは、この方向を向いているのだと思う？」

学芸員さんからの問いかけについて考えているうちに、子ども達の目はだんだん変わってきた。単に「見ている」状態から「鑑賞する」きっかけをつかむことができるように…。自分達で作品の中に次々と発見ができるようになっていったのには驚いた。

「写真ではわからなかったけど、キャンパスに筆のあとがたくさんついてる！」

「この色の重なり合いは、とっても温かい感じがするよ。」

佐藤潤四郎さんのガラスの作品をみて、

「この角度から見た色が一番きれい…。」

今回は、常設展の作品の中から好きなものを選び模写するという活動も取り入れた。「かっこいい」「形がおもしろい」「ほっとする」など選び方にも一人一人の個性が表れる。いつもは元気な子ども達も、静かに気にいった作品と対峙し、鉛筆を走らせていた。

—今日は、きれいな作品をたくさん見ることができて、とてもうれしかったです。

—今度は、お母さんと一緒にきて私が説明してあげたいです。

学校に帰ってから書いた子ども達の感想文には、美しいものをみる喜びとそれを誰かに伝えたい気持ちがあふれていた。

作品をみつめること、細やかな変化に気付くこと、感じること、作者の思いを想像すること…鑑賞を通して、子ども達の感性が豊かになっていく様子を見ることができるのはとても幸せなことである。今後も学芸員の方々のお力添えをいただきながら鑑賞の学習に取り組んでいきたいと思っている。

木村景子(守山小学校教諭)



て、イギリスの工芸デザイナーであるクリストファー・ドレッサーの作品の中で日本や東洋的な要素の認められる作品を紹介しています。

一方では、特に企画展と連動させず、ひとつの作品やテーマを掘り下げて「コレクション」を紹介することもあります。たとえば第一期(4月21日～7月19日)には、「秋山泰計からくりワールド」と題して展示室3で秋山泰計の版画とおびからくり作品を展示しました。秋山のおびからくりを4点収蔵している当館では、これまでも何度か同様に作品を紹介してきました。本来は動かして楽しむおびからくり作品のおもしろさがなかなか伝えられなかったため、今回は模型と一緒に置き、動かすことができるようにしました。

ここでは最近の例をいくつかご紹介しましたが、この他にも毎回、より充実した展示にしようと学芸員が知恵をしばっています。常設



見学のように ワークシートを使うこともあります。

展示室は前に見たから」と思っていたらうっしやるみなさん！ぜひまた2階の展示室においでください。前には見なかった(心に残らなかつ

た、あるいは初めて見るという作品との新たな出会いがきっとあるはず。

当館では、市内の学校に限らず見学される団体から希望があると、学芸員が交代で解説をおこなっています。学校の先生方の中には、子ども達には美術館は難しいとお考えの方もいらっしゃるようですが、決してそんなことはありません。幼稚園の子ども達を案内するときは、私達は子ども達と会話しながら作品を見るようにしています。実はそんなときこそ、私達の方が新鮮な感動や発見に出会うことも多いのです。

特に数年前から、当館では意識的に常設の見学に力を入れています。こうした機会が、美術館の存在意義や役割といった活動全体を説明するなど、美術館への理解を深めると考えているからです。また幼稚園生ばかりでなく、見学者と接することは私たち職員にとっても得られるものが多く、コレクションについて情報を



見学後、子ども達から感想文が届くこともあります。

蓄積していくことにもなります。ときには県立美術館と共同で開発した鑑賞補助教材「アート・キューブ」を用いて、ゆっくり見学する学校もあって、できるだけ希望に沿った対応を心がけています。

これからも、もっともっとみなさまにお楽しみいただけるよう、充実した魅力的な常設展示室になるよう、チャレンジしていきます！どうぞご期待ください！



シリーズ「砂丘モード」より 1983-93年



「僕のアルバム」より 1935年頃



「ボクのわたしのお母さん」1950年

©Shoji Ueda Office

鳥取県出身の写真家・植田正治（1913～2000）は、砂丘を舞台にした数多くの傑作写真を生み出すなど、世界的にも高く評価されています。家族をはじめ、身近な人々を題材にしたり、詩情の中にさりげなくユーモアを漂わせる作風は、現在も多くの人々を魅了してやみません。本展は植田正治写真美術館の協力を得て、初期から晩年に至る代表作約200点を展覧する初めての本格的な回顧展となります。

ヨーロッパの前衛的な写真に影響を受けた初期を経て、植田は、1930年代以降に「演出」写真に取り組みました。砂丘を巨大なホリゾン（舞台背景）に、植田自身と家族をモデルにした一連の演出写真は、「UEDA-CHO（植田調）」と称され国内外で高い評価を得ています。植田は「被写体との語り合い」をとても大切にしていました。植田の作品には、日々の何気ない事象と丁寧に向き合い、世界と自分との距離を探ろうとする醒めた眼差しと同時に、豊かな詩情が流れています。

植田正治写真展 写真とボク

主催／郡山市立美術館

協力／鳥取県伯耆町立植田正治写真美術館／植田正治事務所

協賛／株式会社ニコン、株式会社ニコンイ

メージングジャパン、富士フィルム株式会社、文化堂印刷株式会社

企画制作／クレヴィス

会期／平成23年2月5日（土）～3月21日

（祝・月）※毎週月曜休館。3月21日開館、翌

22日（火）休館。

開館時間／午前9時30分～午後5時まで

観覧料／一般500（400）円

高・大生300（240）円

（ ）内は20名以上の団体料金

65歳以上、中学生以下、障がい者手帳携帯

者：無 料

植田正治の没後、未整理のネガがまとまって発見されました。その中から妻紀枝夫人を被写体にした未発表写真などから写真集が編纂され、2007（平成19）年『僕のアルバム』として出版されました（植田正治／著 仲田薫子／監修 求龍堂／発行）。本展では植田正治事務所の監修のもと、発見されたネガから16点のニュープリントを制作し、初めて展示公開いたします。

（永山 多貴子）

風土記の丘の夏休み

ボクは美術館のある風土記の丘に住んでるウサギ。時々、美術館の駐車場のの上にあるYさんちの畑で野菜をごちそうになったりしているよ。

風土記の丘の雑木林は居心地がいいけど、今年の夏はとて暑かった。美術館ではイギリス人のピアトリクスポーターさんってひとの展覧会をやったみたい。ポーターさんは「ピーターラビットのおはなし」という絵本の作者で、主人公のピーターはボクたちの仲間なんだって。展覧会にはたくさんひとが来て、いろんなイベントをやったよ。

8／1林望先生の講演会は駐車場がいっぱいだった。リンボウ先生の愛車も駐車場に停まっていたから、ステキな先生をボクたちもそっと見ていたんだ。

7／31・8／21おはなし会では、あさか開成高校、須賀川養護学校、郡山第一中学校、郡山第二中学校の生徒さんたちが、いろいろなお話を聞かせてくれたんだ。クイズもあって、あたたかお友達はかわいいプレゼントももらったよ。おはなし会は二回あって、二回目には岩崎京子先生の講演会もあったんだって。

8／22美術館マルシェの日は、一日中にぎやかだったよ。朝から郡山農業青年会議所や郡山農学校、美術館友の会のひとたちが忙しそうに準備していた。カラフルで珍しい野菜なんかもおしゃしに並べられて、とってもおいしそうだったよ。





福島現代美術ビエンナーレ2010関連事業
**「中林忠良氏による
 『銅版画』公開ワークショップ」**

2010年10月10日(日)

版画家・中林忠良さんを講師にお招きして、実際の作業を交えながら、銅版画の制作の過程について、また版のはたらきやその魅力についてお話いただきました。



「木口木版画講座」

2010年9月25日(土)、26日(日)

講師 野口和洋さん(版画家)

「版で発信する作家たち2010」関連事業第2弾。昨年が続いて木口木版画に親しむための講座。



「シルクスクリーン講座」

2010年9月18日(土)、19日(日)

講師 平栗洋三さん(版画家)

「版で発信する作家たち2010」関連事業第1弾。初心者を対象にしたシルクスクリーンの講座。



福島現代美術ビエンナーレ
 2010関連事業
**「Lotus Symphony
 ロータスシンフォニー
 ～蓮ランプシェードをつくろう!～」**

2010年10月3日(日)

美術家・佐藤陽香さんを講師に、和紙を使って睡蓮のランプシェードを制作。作品は、ビエンナーレの会期にあわせて館内で展示しました。



ノーマン・ロックウェル展関連イベント

「楽しいバルーンアート教室」

2010年10月17日(日)

Windship(ウィンドシップ)のみなさんを講師に、アメリカ生まれの芸術・バルーンアートを楽しむ講座。



ミュージアム・コンサート

**「アレッシンドロ・ガラティ
 ジャズ・コンサート」**

2010年9月20日(月・祝)

出演 アレッシンドロ・ガラティ(ピアノ)
 イタリア屈指のジャズ・ピアニストが奏でる優美な旋律と透明感あふれる響きを、秋の夕べの館内で堪能していただきました。

たんだよ、いいなあ。
 最後にボクたちから
 のお願い。今年の春、ボ
 クたちの仲間が美術館
 通りで車に轢かれ
 ちゃったんだよ。安全
 運転にご協力をお願い
 します。
 恥ずかしがり屋のボ
 クはなかなかみんなに
 会えないけど、冬に
 なって雪が降ったと
 き、美術館の庭に足跡
 があつたりするから、
 今度探してみてね!



9/4 展示会の最後には、ピーターのお誕生日もあつたんだ。ロッキン(TUFキャラクター)とがくとくん(郡山市キャラクター)もお祝いに来てくれたんだよ。
 そうそう、がくとくんはマルシェにも来たよ。今年の春デビューしたがくとくんは、あちこちに出かけていって郡山市をアピールしてんだって。姉妹都市の福岡県久留米市に行ったときには、石橋美術館のひとと写真も撮ったんだよ。



10月末、マルシェ用に置いたプランターなどを農業青年会議所のみなさんが片づけに来ていただきました。その他、多くのみなさんのご協力、本当にありがとうございました!
 (プランターのエンジンの葉っぱには、ウサギが食べた跡が…ウサギさん、よかったね!)

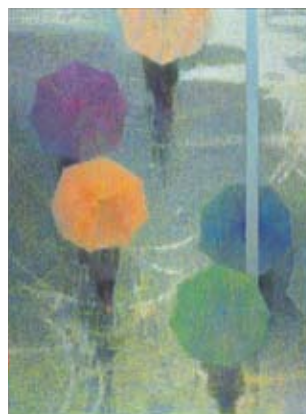
●美術館と中学校の連携事業

「風土記の空」
第3回郡山市内の中学校美術部・選択美術による作品展」

前期：2010年11月23日(火・祝)～12月5日(日)
出品校：明健中学校、逢瀬中学校、守山中学校、高瀬中学校、
緑ヶ丘中学校

後期：2010年12月14日(火)～12月26日(日)
出品校：郡山第一中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、
富田中学校、宮城中学校

今年も中学校美術部・文化部等や選択美術で制作された
作品を展示します。生徒が展示作業(額装、キャプション
作成、作品展示)も体験します。中学生の若さあふれる作
品をぜひご覧ください。



安藤 重春 〈雨の華〉
1979年 紙本着色

常設展示のご案内

■12月26日(日)まで

展示室1 英国19世紀末美術と日本
展示室2 蜷川式胤と亀井至一・竹二郎
展示室3 版で発信する作家たち part 1
展示室4 版で発信する作家たち part 2
『北斎漫画』と工芸デザイン

■2011年1月15日(土)より

展示室1 小特集：フランク・ブランキン
展示室2 「写実性」と「絵画的性」
展示室3 ふるさとの作家たち
展示室4 ターナーの版画
ガラスの神様たち

T O P I C S

○全館休館のお知らせ

12月27日(月)～2011年1月14日(金)
年末年始及び館内の消毒のため、全館休館とな
ります。

○雪村周継「四季山水図屏風」特別展示

2011年1月15日(土)～30日(日)

場所：企画展示室

常設展のチケットでご覧いただけます。

一般210(150)円 高・大生130(100)円

()内は団体料金 中学生以下、65歳以上、障がい者
手帳をお持ちの方は無料



色づいてきた風土記の丘の木々を
眺めながら、ほっとひと息。おい
しい紅茶はいかがですか？もちろ
んカレーやバーガーサンドでお食
事でも、ゆっくりおくつろぎくだ
さい。「植田正治写真展」のころ
は、雪景色にウサギの足跡がみつ
かるかも…。



フルーツハーブティー「ピーチガーデン」とスコーン

カフェ「フローラ」

10:30～18:30 (L.018:00)
TEL: 024-942-2212